

No. 85

May 2022

# 今号のトピックス

会長および評議員選挙があります。投票の締め切りは 7/11 です。

→2ページ

2022 年度日本植物分類学会大会発表賞受賞者の「喜びの声」を 掲載しています! → 5ページ

#### 次 目

会長および評議員選挙公示2
諸報告
2022 年度総会議事抄録 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
2022 年度事業計画および予算4
2022 年度日本植物分類学会大会発表賞の報告4
2022 年度日本植物分類学会大会発表賞受賞者 喜びの声5
2021 年に到着した交換図書一覧7
お知らせ
日本植物分類学会第 22 回大会(千葉)のお知らせ8
書評9
2021-2022 年度日本植物分類学会役員選挙被選挙人名簿 10
会員消息

## 会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 山田敏弘

2022 年 12 月末をもって,2021-2022 年度の役員が任期満了となります。これにともない,次期会長および評議員の選挙を,学会会則12条および役員等の選出についての細則に従い,下記の通り行います。

この選挙で選出される会長および評議員には、学会ならびに植物分類学の将来を見据え、学会の運営や活動を推進いただくことになります。大切な選挙ですので、学会員の権利である一票をぜひ投じて頂きますよう、会員のみなさまにお願いいたします。投票の締め切りは 2022 年 7 月 11 日 (月) です。

なお、会則第13条3で定められているように、役員には在任期間に関する制限があります。 今回の選挙では、以下の方に各役員の被選挙権がありません。投票用紙に記名されても無効になりますのでご注意ください。

会長の被選挙権なし:該当なし

評議員の被選挙権なし(五十音順):池田博,永益英敏,山田敏弘,綿野泰行

また、役員等の選出についての細則の第2条「評議員会は若干名の会長候補を推薦することができる」とあることにもとづき、評議員会から会長候補者として以下の3名の方が推薦されています。なお、評議員会推薦の会長候補者以外の被選挙権をもつ会員に投票されてもかまいません。

評議員会推薦の会長候補者(五十音順):田村 実,永益 英敏,村上 哲明

#### 選举実施細目

- 1. 投票締切: 2022 年 7 月 11 日 (月) (当日消印のものまで有効)
- 2. 投票用紙:投票には、ニュースレター本号に同封されている会長選挙投票用紙(ピンク)と評議員選挙投票用紙(ブルー)を使用してください。それ以外の用紙を用いた場合、無効となります。
- 3. 記入方法: ニュースレター本号の選挙人名簿をご覧になり、会長選挙投票用紙(ピンク)に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙(ブルー)に評議員候補者8名以内をそれぞれ記入してください。同姓あるいはよく似た名前の会員がおられます。投票に当たっては選挙人名簿を参照の上、氏名を略さずに記入してください。規定数を超えて候補者名を書かれた場合は、その票自体が無効となります。また、会員以外の候補者名を書かれた場合は、会員以外の部分のみが無効となります。
- 4. 投票用紙の郵送:記入後, 投票用紙を二つに折り, 同封の返送用封筒に入れて郵送してください。 封筒には, ご自分の住所と氏名を必ず記入してください。封筒が同封されていないか, あるい は紛失した場合には, 「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きした任意の封筒で, 下記の 投票用紙送付先まで郵送してください。その場合, 切手代はご負担ください。なお, 投票用紙 の再発行はいたしません。
- 5. 開票: 2022 年 7 月 15 日(金) に開票します。開票場所は大阪公立大学附属植物園を予定しています。会員 2 名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。立ち会いを希望される場合は、開票日時・場所の詳細を追って連絡いたしますので、選挙管理

委員長までご連絡ください。

6. その他,不明な点などございましたら下記宛ご連絡ください。 投票用紙送付先および連絡先

〒 576-0004 大阪府交野市私市 2000 大阪公立大学附属植物園

日本植物分類学会選挙管理委員長 山田 敏弘

e-mail: tyamada@omu.ac.jp

# 諸報告 =

# 2022 年度総会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

開催方法: WEB 会議システム zoom ウェビナーと、その投票機能をもちいたオンライン形式 日時: 2022 年 3 月 5 日(土) 14:00 ~ 15:00

- 1. 総会に先立ち、村上哲明会長から挨拶があった。
- 2. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
- 3. 綿野泰行氏が総会議長に選出された。

### 4. 報告事項

4.1. 会務報告

西野庶務幹事より,報告内容は第一号議案と同じであるため,議案審議の際に報告するとの 説明があった。

4.2. 会員数について

國府方会計幹事より、会員数の説明がなされた。

4.3. 各委員会からの報告

編集委員会, 学会賞選考委員会, 論文賞選考委員会, 植物データベース専門委員会, 絶滅危惧植物専門第一委員会, 及び同第二委員会, ABS 問題対応委員会, 国際シンポジウム準備委員会, 標本問題対応委員会, 研究・普及推進委員会の各委員長, またはその代理から活動報告がなされた。

#### 5. 審議事項

審議に先立って, zoom ウェビナーの投票と挙手(投票機能に制限がある方)の機能をもちいて出席者数の確認を行い, 庶務幹事より総会出席者 99 名(後に 95 名)であることが報告された。5.1.【第一号議案】 2021 年度事業報告, ならびに 2021 年度決算報告

前年度の事業報告と決算報告が、西野庶務幹事と國府方会計幹事よりそれぞれ説明された。 池田啓監事、大村嘉人監事により、会務および会計が適切であるとの監査結果が提示された。 審議の結果、賛成 99 票、反対票 0 票、白票 0 票で出席者(99 人)の賛成多数をもって承認された。

5.2.【第二号議案】 2022 年度事業計画, ならびに 2022 年度予算案

西野庶務幹事と國府方会計幹事より本年度の事業計画と予算案の説明があった(ニュースレ

ター84号掲載のとおり)。審議の結果, 賛成95票, 反対0票, 白票0票の賛成多数をもって承認された。

#### 5.3.【第三号議案】 名誉会員の推薦について

会則第5条に則り、以下9名の会員が推薦され、賛成多数で承認された。

岡本素治氏,加藤雅啓氏,斎藤亀三氏,芹沢俊介氏,高橋弘氏,林一彦氏,村瀬忠義氏,安昌美氏,若林三千男氏

#### 6. その他

#### 6.1. 選挙について

『役員等の選出についての細則』第1条に則り、会長により選挙管理員長として山田敏弘氏が 指名されたこと、および、同第2条に基づき評議員会による会長候補の推薦が行われることが 西野庶務幹事より告知された。

#### 6.2. 第 22 回大会開催について

次回第 22 回大会について、千葉にて開催されることが村上会長より告知され、総会閉会前に 綿野泰行次回大会会長より挨拶があった。

## 2022 年度事業計画および予算

庶務幹事 西野貴子

ニュースレター 84 号 (前号) にて掲載した 2022 年度事業計画案,および予算案は,総会にて承認され変更はありません。そのため本号での再掲は割愛いたします。

# 2022 年度日本植物分類学会大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 海老原 淳

2022年度大会発表賞には、合計 47 題(口頭発表 27 題、ポスター発表 20 題)のエントリーがありました。14 名の選考委員は、各発表について「研究内容」と「プレゼンのうまさ(ポスター発表では視認性の良さ、わかりやすさ)」の2つの指標で採点を行い、集計結果を踏まえた合議から計 3 題(口頭発表賞 2 題・ポスター発表賞 1 題)が大会発表賞に選ばれました。日本植物分類学会の大会としては 2 回目のオンライン開催となり、どの発表者もオンライン発表の要領を掴んで、発表に集中できるようになった感があります。近年の解析技術の進歩によって、手法面の差別化が難しくなっている一方で、複数の手法を効果的に組み合わせた研究や、材料を選択する際の目の付け所が良い研究が高く評価される傾向が見られました。受賞者のみなさま、おめでとうございます。

#### 口頭発表賞 (大会プログラム掲載順)

孫田佳奈(京都大・人環)

「多様な表現型を示すダイモンジソウの系統進化史」

宮本通(東大・院・植物園)

「タコノキ科アダンの甲虫媒 - 花序で繁殖する送粉者ケシキスイと花序の発熱」

### ポスター発表賞

Jiaxin Yu(京都大・院・人環)

「MIG-seg による日本産スミレ属タチツボスミレ類植物の系統関係の推定」



大会発表賞受賞式の様子(左上: 海老原 淳選考委員長, 中央上: 村上 哲明会長, 左下: Jiaxin Yu 氏, 中央下: 孫田 佳奈氏, 右下: 宮本 通氏)

# 2022 年度日本植物分類学会大会発表賞受賞者 喜びの声

ニュースレター幹事 山本薫

発表賞受賞者のみなさまの喜びの声をお伝えいたします。

#### 孫田 佳奈さん —

富山県立大学の孫田佳奈です。4月より所属が変わりました。この度は口頭発表賞をいただき、ありがとうございます。学生生活最後の分類学会大会で賞をいただけましたこと、大変嬉しく思います。

私は、日本列島において多様化しているダイモンジソウを対象に、適応進化機構の解明を目指し、研究を進めております。今回の系統地理解析の結果は、本種が日本列島において南方へ分布拡大する過程において、多様な表現型が繰り返し進化したことを示しました。多様なハビタットへの進出と適応が頻繁に起きている本種の進化的ポテンシャルの高さは、大変興味深い点です。

今後は個別の環境要因への生理的・ 生態的適応機構に着目し、本種の多 様化メカニズムを追究していきたい と考えています。

本研究は、野外調査や実験・解析への助言など、多くの方々にお力添えいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。今回の受賞を励みにより一層精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





2種類の渓流型:ナメラダイモンジソウ(左)とウチワダイモンジソウ(右)

### 宮本 通さん -

東京大学の宮本通です。この度は、口頭発表賞という名誉ある賞を頂きまして、大変光栄に思います。これを機会に、タコノキ科のおもしろさを共有できたことが何よりの喜びです。

私は現在,「変な花」をもつ植物の「変わった送粉様式」に特に熱い視線を注いで自然史研究を行っています。中でも注目したのが、世界の旧熱帯に約 450 種が分布するタコノキ属の植物でした。タコノキ属の花はとても変わった形態をしていて、花被や蜜腺はありません。雌雄異株で、雄花序は馬のしっぽのように垂れ、雌花序は握りこぶしのような肉穂花序を苞が包んでいます。これまでタコノキ属は長らく風媒であると信じられてきましたが、琉球列島に自生するアダンで詳細な調査を行った結果、アダンは雄花序で繁殖する微小な甲虫(ケシキスイ科ハナケシキスイ属の一種)と特異的な共生関係を結んでおり、そのケシキスイによって送粉されることがわかりました。アダンで見つかったケシキスイは未記載種で、さらに同属の昆虫は世界中のタコノキ属の花序からもっぱら見つかっていることからも、両者はまったく未知の共進化系である可能性が考えられます。これからの研究の展望にとても胸が躍ります。

また、驚いたことに、アダンの花序は雄も雌も発熱していることがわかりました。最大で周囲温度より8℃ほど花序表面温度が高くなっており、深夜に野外でちぎった雄花序を数時間後に手で触るとほのかに温かかったことは目の前で何が起こっていたかにわかには信じられませんでし

た。花序の発熱の進化的な意義についてはまだはっきりとしたことはわかりませんが、発熱のピークとケシキスイの訪花ピークが見事に重なるため、送粉者の誘引について何らかの関係があるのではないかと考えています。

改めて、この度はこのような機会を下さりありがとうございました。この場をお借りして、本研究を支えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。



アダンの雄花序に集まる ハナケシキスイ属 sp.



アダン雄花序

#### Jiaxin Yu さん —

ポスター発表賞をいただきました、京都大学の YU JIAXIN です。本格的な研究を始めてたった 1年、学会にも初めて参加したので、大変嬉しいながら恐縮です。

元々スミレ属植物は形質のバリエーションが豊かであり、自然交雑も起こしやすいため、分類に不明なところが多く残されています。先行研究を踏まえ、タチツボスミレ類は短時間に種分化が進んでいたと考えられ、この度より多い SNP 情報が得られる MIG-seq 法を用いて系統解析を

行いました。今回の研究結果は、進化に沿ってタチツボスミレ類は5つのグループに分けられ、いくつかの種に関する分類に再検討が必要なことを示しました。未記載の山陰型タチツボスミレは、従来混同されていたシーボルト型のコタチツボスミレとは別の種であり、イソスミレが含まれることで広義タチツボスミレは側系統になり、ツルタチツボスミレは日本海側のオオタチツボスミレなどに近縁なことが分かりました。



京都大学芦生研究林にある山陰型タチツボスミレ

タチツボスミレ類のような、日本全土にわたって広く分布する植物に地理的変異が著しいと考えられます。これから私自身の調査と共同研究者や地方の方からいただいたサンプルを加え、山陰型タチツボスミレの地理的変異の確認および新種発表を進めて行きたいと思います。この場を借りて、ご協力してくれた多くの方たちに御礼を申し上げます。

# 2021 年に到着した交換図書一覧

図書幹事 藤井俊夫

#### 国外交換

Aliso: 38(1-2), 39(1-2)

Annals of the Missouri Botanical Garden: 105(4)

Bulletin Mensuel de la Société d'Histoire Naturelle de Toulouse: 156

Candollea: 75(1-2), 76(1-2)

Fritschiana: 96, 97 Gardenwise: 56, 57

Hoppea:81

Journal of the National Taiwan Museum: 73(3), 74(1-4)

Kew Bulletin: 75(3-4), 76(1-4)

Novon: 28(4)

Plant Diversity (Plant Diversity and Resouces):42(4-5), 43(1-5)

Plant Ecology & Diversity: 13(3-6),14(1-2)

Rapport Annuel (Conservatoire et Jordin Botaniques de Geneve) Swiss: 2019, 2020 A Field Guide to the Bushcrickets, Wetas and Raspy Crickets of Tanzania and Kenya

Thaiszia Journal ob Botany: 30(1-2) The Gardens' Bulletin Singapore: 73(2)

Willdenowia 50(3), 51(1-2)

国立台湾大学生物資源及農学院実験林報告:35(2-3)

生命世界(Life World): 2019(1)-2021(12)

大自然: 216(5-6)

台湾大学実験林報告:34(4)

#### 国内交換

大阪市立自然史博物館研究報告:74 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録:51

自然史研究 (大阪自然史博):4(4) 神奈川県植物誌調査会ニュース:90 国立科学博物館研究報告:46(4),47(1)

徳島県立博物館研究報告:31

植物学雑誌:134(1-6) 植物研究雑誌:96(1-6) 蘚苔類研究:12(5,6) ヒマラヤ植物研究会会報:52 岐阜県植物研究会誌:35 近畿植物同好会会誌:44

兵庫県植物誌研究会会報:127,128

東北植物研究:22

鹿児島大富岳演習林研究報告:46

# お知らせ =

## 日本植物分類学会第 22 回大会(千葉)のお知らせ

第22回大会会長 綿野 泰行(千葉大学・院・理学研究院)

日本植物分類学会第 22 回大会を、下記の通り開催いたします。大会および参加申し込みの詳細は、大会ホームページおよび 2022 年 8 月号・11 月号のニュースレターでお知らせいたします。 第 19 回から 21 回大会まで、コロナ禍により対面での開催が出来ない状況が続いていますが、なんとか収束することを祈っています。多数のご参加をお待ちいたします。

#### 【会場】

千葉大学西千葉キャンパス けやき会館

千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

https://www.chiba-u.ac.jp/campus\_map/

#### 【日程】

2023 年 3 月 1 日 (水) ポスター発表 (オンライン)

3月2日(木) 移動日,各種委員会·評議員会(午後)

3月3日(金) 口頭発表

3月4日(土) 口頭発表,総会・授賞式・受賞講演,懇親会

3月5日(日) 口頭発表,公開講演会(午後)

#### 【ホームページ】

現在作成中,アクセス可能になり次第,日本植物分類学会ホームページ等にて連絡いたします。

### 【問い合わせ先】

日本植物分類学会第 22 回大会(千葉大会)実行委員会

大会実行委員長 朝川 毅守

〒 263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学・院・理学研究院・生物

TEL: 042-290-2820; E-mail: jsps2023chiba@gmail.com

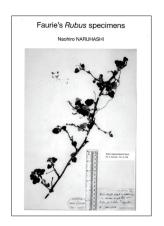
# 書評

## Naohiro Naruhashi Faurie's Rubus specimens

英文 鳴橋直弘 / 著 フォーリーのキイチゴ属標本: 評者訳 自費出版 価格: 3400円(本体価格 3000円+送料 400円) B5 判 367ページ 2021年12月

加藤 雅啓 (国立科学博物館)

フランス人宣教師フォーリー (U. Faurie) は 1873 (明治 6) 年に来日して以降,1915 (大正 4) 年に台湾で調査中に亡くなるまで,日本各地を隈なく,さらに近隣地域でも調査してあわせて数万点の

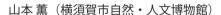


標本(重複を含めると30万点)を採集した。日本の植物分類学の黎明期において内外の研究者が彼の標本を使って日本の植物相の解明に大きく貢献した。著者の鳴橋氏は学生時代以来,京都大学などに保管されていたキイチゴ属 Rubus の標本を調査研究してきた。標本ラベルの写真が何枚か載っているが,自筆による独特の字体でデータが記入されている。本著は fauriei として献名された全植物の学名(表1),キイチゴ属のフォーリー収集標本一覧(表2),キイチゴ属標本の収集年と所蔵標本庫(表3),収集標本を用いたキイチゴ属新種学名と標本番号(表4),本著で使われている学名(表5)をまとめた。続いて,標本番号順におよそ330点のキイチゴ属標本写真を載せている。なお,写真はすべて白黒。フォーリーの伝記や標本を用いた研究が末尾の文献目録にまとめられている。鳴橋氏の長年にわたる地道な収集調査の成果であり,フォーリーおよびキイチゴ属に関心がある人にとって貴重な資料となるであろう。

本著は自費出版なので、お求めになりたい方は著者あてにメールでお申込みください (vjrgx660@ybb.ne.jp)。

# 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編

神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館/編神奈川県/発行 定価:935円(税込み) A4判 438ページ 2022年3月



2006 年以来の更新となる『神奈川県レッドデータブック 2022 植物編』が発行されました。「植物編」とありますが、本書では維管束植物のみならず、コケ植物、藻類、菌類も扱っています。各種について生態・生育状況・存続を脅かす原因等が記されており、地域の多様性保全に役立つものと思います。

本書は、神奈川県庁本庁舎売店での購入、あるいは神奈川県内の一部書店にて取り寄せが可能です。詳細は神奈川県のホームページをご覧ください。また、PDF 版が Web で公開されています。是非ご活用ください(https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t4i/cnt/f12655/p1197000.html)(QR コード参照)。





# 編集室より

会長および評議員選挙があります。投票よろしくお願いいたします。また、今号は書評も掲載しております。皆様からの寄稿をお待ちしております。 (ニュースレター担当幹事 山本薫)

入会申込,住所変更,退会届,会費納入,購読申込などは 下記へご連絡ください。

〒 305 - 0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 國府方 吾郎 (会計幹事)

Phone: 029-853-8423, Fax: 029-853-8998

E-mail: kaikei@e-jsps.com

会 費:一般会員 7,000 円,学生会員 3,000 円,

団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号:00120-9-41247

加入者名:日本植物分類学会

令和 4 (2022) 年 5 月 20 日印刷 令和 4 (2022) 年 5 月 25 日発行

編集兼 神奈川県横須賀市深田台 95 発行人 横須賀市自然・人文博物館

山本 薫

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館植物研究部

日本植物分類学会

\*ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。